

一 般 質 問

令和8年第3回（9月）定例会

通告順	議席番号	議 員 名	ページ
1	10番	細 谷 文 人	2
2	19番	渡 邊 光 子	4
3	6番	岩 崎 隆 志	6
4	14番	山 中 敏 正	7
5	1番	仲 又 清 美	9
6	11番	糸 井 政 樹	11
7	4番	砂 川 和 也	13
8	13番	浦 田 充	15
9	2番	渡 邊 広 美	17
10	7番	榊 萌 美	20
11	9番	近 本 あんな	22
12	5番	北 村 あやこ	23
13	8番	須 山 陽一朗	24
14	3番	渡 辺 ま や	26

質問方法は全議員とも複合式

※ 複合式とは、1回目の質問及び答弁はまとめて行うが、2回目以降は1項目ごとに一問一答で行う。質問時間は答弁も含め1時間以内とする。
(質問回数の制限なし)

10番 細谷 文人

1. 巨大地震への対策は充分になされているか

(1) 指定避難所・指定緊急避難場所の耐震について

- ① 全ての指定避難所・指定緊急避難場所の耐震化は完了しているか。
- ② 3月議会で取りあげた避難所の一つである桶川西高校の体育館は、震度6強から7程度の大地震に対して、どの程度の被害を受けると想定されるか。
- ③ 桶川西高校での、非構造部材の耐震化は行っているか。
- ④ べに花ふるさと館の耐震基準は何か。なお、接合部への金物の取り付け・耐力壁のバランス強化はされているか。

(2) 桶川駅西口のペデストリアンデッキの耐震について

- ① いつ設計されたか。
- ② いつ竣工されたか。
- ③ 震度6強から7程度の地震に対して、倒壊・崩壊・落橋しないことが保証されているか。
- ④ 6月議会では「新耐震基準を満たしている」とのことだが、この認識は変わっていないか。
- ⑤ 6月議会以降で、構造計算書、協議文書以外に見つかった資料はあるか。あれば、何が見つかったか。
- ⑥ 橋脚補強は行っているか。
- ⑦ 落橋防止装置が設置されているか。
- ⑧ 今後、耐震補強の方向性はあるか。

2. 市長公約の産婦人科誘致は進んでいるか

(1) 誘致計画について

- ① 誘致の目的はどのようなものか。
- ② 応募条件はどのようなものか。
- ③ 問い合わせや応募はあったか。あれば、何件あったか。
- ④ まだ誘致を達成できない原因を分析したか。
- ⑤ 誘致に向けての取組など、どのようなアプローチをしているか。
- ⑥ 募集期間が終了した後の対応はどうか。再度、募集にあたっては、何を変えて又は加えていくか。

3. 桶川駅西口周辺のムクドリ対策はどうなっているか

(1) 防除について

- ① 去年の苦情や問い合わせ件数は何件か。また、その具体的な内容
は何か。
- ② 桶川駅西口周辺で発生している原因は把握しているか。
- ③ 現在の対応とその効果は。
- ④ 今後の対策はどうするか。

19番 渡邊 光子

1. 入学準備金貸付金について（資料請求）

- （1） 貸付と返済状況を伺います。
- （2） 返済遅延金について保証人・連帯保証人に請求した事例を伺います。

2. 泉2丁目364－9川田谷泉線の残地の公売について

- （1） 来年度予算に間に合うように、早期の民間払い下げの公売を求めて、予定を伺います。

3. 公道走行の自転車への交通ルールが罰則金を伴うなどあり、変わりました。自転車を追い越す車にも罰則が適用されます。そこで伺います。

- （1） 車道の自転車走行車線内に歩道の高木の枝や草が飛び出し、自転車の走行を妨げているところが多く見られ、自転車道から車道へ飛び出した自転車の走行が見られます。この自転車を追い越すために車は自転車から1メートル以上離れて追い越しが求められ、車は反対車線に飛び出すことが考えられます。自転車、車の安全確保のために、車道へ飛び出す高木の枝や雑草の徹底した除去を伺います。
- （2） 歩道内において、特にサルスベリの高木の枝が通行人の体に触れるほどの低いところにあり、通行人や自転車の走行を妨げています。徹底した、人の頭上以上での剪定をすることについて伺います。

4. ベにばなキッチンの状況改善について

桶川市作成の店先の看板記載の「お席のみの利用も可能です」について、談話だけで店内を利用する、又は自前の弁当のみを店内で食べる等が見受けられます。そこで伺います。

- （1） 職員やその他の人が自前の弁当持参で食事をする、又は待ち合わせや談話をする場所として、選挙で投票所として使用する隣の部屋を利用できるように机や椅子の用意をお願いします。
- （2） 「お席のみの利用も可能です」の文字に変わり、ベにばなキッチンのお店が少しでも潤うような文字記載の新看板作成を希望します。

5. 職員の視察時の費用等について

- （1） 職員の視察時等の随行、同行、視察費等の昨年度の全ての状況を伺います。（資料請求）

6. 桶川市の総合グラウンド整備について

6月議会において「桶川市の新総合グラウンド整備はあきらめた」等の寂しく悲しい一般質問での言葉を耳にしました。たしか以前「総合グラウンドをどこに整備するか」等の市長からの前向きな話があったように思い出します。そこで伺います。

- (1) 鴻巣市は以前早くから鴻巣市の東側はずれ、県央みずほ斎場先に総合グラウンド予定地があったと記憶します。現在は総合グラウンドは整備済みです。近くには舎人スポーツ・パークや新小針領家グラウンドもあり、桶川市もまず予定地を現在の環境センターの場所に用意することを伺います。
- (2) 国の荒川の整備事業が近くあると聞きます。この機会を見逃さず桶川市長が議会や職員と一丸となり、桶川市の現在の荒川の川辺の総合グラウンドを、県整備による北本市荒川の川辺の水辺プラザ公園のように整備することを県に働きかけていくことを希望します。

6 番 岩崎 隆志

1. AIを活用した「孤独死ゼロ」を目指す福祉行政の構築について
 - (1) 外部専門知見を活用し、職員の手を新たに煩わせることなく、高齢者の孤立リスクを精密に「未来予測」することで、「孤独死ゼロ」の温かい市政経営へ転換する決意を伺う。
 - (2) 職員がより「市民の困りごと」に直接向き合える時間に充て、テクノロジーで「人の温もり」を最大化する行政DXを実現しませんか。
2. 広域交通網としての地の利を100億の富に変える予測戦略
 - (1) 未来技術となるAIを活用し、地域特性から交通や物流需要などを予測し、企業誘致など土地利用のゾーニングに生かすことについて市の考えを伺う。
 - (2) 未来技術となるAIを活用することにより、選ばれるまちへと変貌させ、持続可能なまちづくりを実現することについて市の考えを伺う。
3. 世界ブランド「桶川臍脂」復活、AIで歴史を「稼ぐ力」へ
 - (1) 伝統文化の「経済化」への決断
「紅花」を単なる保存対象とせず、AIによる世界的な市場トレンド分析を掛け合わせ、世界に通用する地域ブランドとして再構築し、観光と経済の柱に据える取組を進めませんか。
 - (2) AIによる観光資源の可視化と最大化
歴史的街並みや価値ある場所をAIで分析し、最も収益性が高く魅力的な観光ルートや体験型コンテンツを可視化することで、歴史を「誇り」から「持続可能な経済の柱」へと変えませんか。
 - (3) 100年後の未来への責任
「私たちの市長は、AIを使って桶川の誇りを永遠のものにした」と、100年後の子どもたちが称賛するような、夢と実益を兼ね備えた決断を今、下そうではありませんか。

1 4 番 山中 敏正

1. 桶川駅西口の利便性向上に向けたエスカレーター設置について

(1) 利用者の現状認識について

- ① 高齢者や子育て世代をはじめとする市民からの設置ニーズ（声）について、伺います。
- ② 通勤・通学ラッシュ時における西口階段周辺の混雑度と安全性について、伺います。
- ③ 移動の円滑化の「質」を高める必要性の見解を、伺います。

(2) 過去の検討経緯と技術的課題について

- ① これまでに市が実施した導入可能性の検討およびＪＲ東日本との協議実績について、伺います。
- ② 現時点で想定している設置への障壁は具体的に何なのか、伺います。
- ③ 財政負担について過去に試算があるか、また財源としてどのような支援制度が想定できるのか、伺います。

(3) 今後のまちづくりとの連動について

- ① 単独事業として設置は可能であるのか、伺います。
- ② 将来的な周辺整備や改修計画に組み込む考えはあるのか、伺います。
- ③ 事業化に向けた各フェーズ（調査・設計・工事）の想定期間について、伺います。

2. 桶川市における空き家の現状と課題について

(1) 空き家等の実態調査について

- ① 実態調査の目的・項目・地域ごとの詳細な結果について、伺います。（地域ごと資料にて説明願います）
- ② 桶川市の全住宅に対する空き家割合と、埼玉県内における立ち位置について、伺います。（県内の状況を比較した資料にて説明願います）

(2) 法改正による定義の変化と自治体の権限について

- ① 空き家・特定空き家・管理不全空き家の定義、違い、指定手順について、伺います。（資料にて説明願います）
- ② 改正法による自治体の権限強化や対策内容について、伺います。

(3) 空き家放置に伴うリスクとペナルティについて

- ① 空き家を放置することによるリスク（防犯・防災・衛生面など）について、伺います。
- ② 税金面のリスクと法的な罰則について、伺います。（事例を資料にて説明願います）

3. 空き家の利活用について

(1) 空き家対策に取り組む体制について

- ① 民間との連携について、伺います。
- ② 住民への周知について、伺います。
- ③ 庁内体制の整備について、伺います。

(2) 法的・制度的な集約手法について

- ① 相続土地国庫帰属制度とその活用状況について、伺います。
- ② 空き家バンクの利用状況と補助金制度について、伺います。
- ③ 空き家等活用促進区域の設定について、伺います。

(3) 農地付き空き家制度について

- ① 導入に向けた検討状況について、伺います。
- ② 制度周知とマッチングにおける課題について、伺います。
- ③ 移住・就農後のフォローアップ体制と関係部局の連携について、伺います。
- ④ 国の交付金（地域未来交付金）や新事業の活用に向けた今後の見通しについて、伺います。

1 番 仲又 清美

1. 子育て支援について

(1) 5歳児健診の導入について

- ① 昨年度、国が令和10年度までに導入を目指すとの指針に、県内でも、今年度から、導入する自治体が増えてきた。県内で、導入している自治体について伺う。※資料要望
- ② 昨年の6月議会で、本市の導入について質問した。その後の、本市の進捗状況について伺う。

(2) 「HPVワクチン」男性接種助成の方向性について伺う。

- ① 「HPVワクチン」男性接種助成について、県内でも、今年度から、導入する自治体が増えてきた。県内で、導入している自治体について伺う。※資料要望
- ② 「広報おけがわ」の8月号の22ページ「健康づくり幸せづくり」の欄では、桶川北本伊奈地区医師会から「男の子にもHPVワクチン」とのタイトルで、接種を推奨している記事が掲載された。令和7年6月議会で質問した際には、既に、同地区医師会の北本市が助成していたが、同じ地区医師会管轄の本市は、助成する方向性はないのか伺う。

2. 高齢者支援について

(1) 「終活情報登録事業」について

- ① 令和7年9月議会にて、「終活情報登録事業」の導入について伺った。その後の進捗状況について伺う。
- ② 厚生労働省は、葬儀や死後の財産処分などを行う事業者が守る事項などを定めたガイドラインを策定し、自治体による「終活」支援の課題を検証するモデル事業を始めた。その後の本市の受け止め方と、本市の導入に向けての方向性について伺う。

3. 災害に強いまちづくりについて

(1) ゲリラ豪雨による浸水被害防止対策について

- ① 令和6年8月のゲリラ豪雨で、床下浸水した坂田地区の小松住宅周辺対策について、グレーチングの増設等で対策をしていただいた。その後の効果と現況について伺う。

- ② 令和6年8月のゲリラ豪雨で、浸水した地域について、先の議会で、対策を行ったと伺っているが、その後の効果について地域別に伺う。※資料要望

(2) 風水害対策について

- ① 樹木や電柱・標識等の倒壊を防ぐ対策についての方向性を伺う。
- ② 浸水被害を防ぐ対策についての方向性を伺う。
- ③ 雷等による停電時の対策についての方向性を伺う。

1 1 番 糸井 政樹

1. 地域の担い手である市内事業者や生産者の発展について

- (1) 今年度「桶川市くらし応援商品券」が発行されましたが、過去に発行された商品券について経済効果の検証、売上げについてのアンケートは行われましたか。またその結果はどのようなものであったか伺います。
- (2) 当市には同じものを生産している方がおり、小売業の同業者も沢山おられますが、市からの応援態勢などは公平公正に行われていますでしょうか。
- (3) 道の駅べに花の郷おけがわは多くの来場者で賑わっておりますが、現在市内業者、生産者は何社参入しており、いくつの商品が販売されていますか。また、これから新規参入するにはどのような基準と手順が必要ですか。

2. 当市の国民健康保険について

この度改正された国民健康保険ですが、高齢者、無職の方、非正規雇用者、自営業者などの加入率が高く、医療費の増加などにより運営は厳しい状況になっています。さらに加入者の保険料負担は重くなる一方であり、支払い能力を超えつつある危機的状況になっております。

- (1) 病気やけがで失業したり保険料が支払えないときの対応はどのようなになりますか。また、保険料の滞納状況は近年どのようなになっていますか。
- (2) マイナ保険証を持たない方に「資格確認書」が発行されていますが、将来マイナンバーカードを取得していない方はどのようなになりますか。

3. 当市の給食について

- (1) 献立の設定方法や仕入れ先との調整は、誰の責任の元、どのように行っていますか。
- (2) 他市との比較は行っていますか。
- (3) 食材の充実、メニューの多様化などに向けて、児童・生徒や教職員にアンケートはどのように行っていますか。
- (4) この物価高騰のなか、質・量ともに落とさない給食の実施に向けてどのような施策を行っていますか。

4. 緊急通報システム事業について

- (1) この事業に登録している方は現在何名おりますか。
- (2) 近年通報・対応された件数はいかがでしょうか。
- (3) 要件にHPでは「同一敷地内に親族がいない事」とありますが、申請用紙には「親族が市内に居住しているが、日頃の交流が少なく緊急に対応できない」と違いがあるが、実際は。

4 番 砂川 和也

1. 2年目を迎えた道の駅について

(1) 令和8年度の運営状況について

- ① 売り上げ状況と地元産品の割合について伺います。
- ② 来場者数の実績と前年度からの分析について伺います。
- ③ 来場者アンケート調査の把握状況とそのデータ活用について伺います。

(2) べに花まつりについて

- ① 来場者数、駐車場の利用状況について伺います。
- ② 初年度の経験を生かしたイベント開催の検証結果について伺います。

(3) 施設管理について

- ① ドッグランの芝生張替え後の利用状況と施設管理方法について伺います。
- ② 国が整備したトイレ施設の臭気や設備清掃等についての問い合わせ状況を伺います。
- ③ 駐車場内のアイドリングストップのマナー遵守の対策について、国との検討状況を伺います。
- ④ 防災道の駅として実施した防災点検の内容と結果について伺います。

2. 拠点整備と拠点間を結ぶ公共交通について

(1) 第六次総合計画について

- ① 計画内にある「集約型都市構造」の形成として「歩いて暮らせるまちづくり」の実現に向け、どのように土地利用計画へ反映させているのか伺います。
- ② 利用しやすい拠点間整備と公共交通の将来構想について伺います。
- ③ 公共交通を維持するための課題と総合計画に与える影響について伺います。

(2) 西側既存施設における循環バスについて

- ① 道の駅の計画構想における循環バスの位置づけと、試走後の検証結果について伺います。
- ② いずみの学園整備後のバス路線、バス停名称の検討状況について伺います。

- ③ 観光まちづくり拠点施設における循環バス等の利便性拡大の考え方について伺います。
- (3) 新たな計画における循環バス等について
 - ① 日出谷地区整備における循環バスの考え方について伺います。
 - ② インター周辺東部地区開発における循環バス等の考え方について伺います。

3. 国民健康保険証の完全移行について

- (1) 移行後の変化について
 - ① 完全移行後の問い合わせ状況と件数について伺います。
 - ② 資格確認書と資格情報のお知らせの問い合わせと利用状況を伺います。
 - ③ 移行前後のオンライン資格確認の利用状況の実績と変化について伺います。
- (2) マイナンバーカードについて
 - ① 近年の月別更新実績と今後予定している更新件数について伺います。
 - ② 更新対象者への周知方法とその更新手続きについて伺います。
- (3) 更新対策について
 - ① スムーズな更新に向けた準備と対策について伺います。

13番 浦田 充

1. 公民館の現状と課題について

(1) 各公民館のバリアフリーについて

- ① 整備状況を伺う。
 - ア. 多目的トイレ、ユニバーサルシートについて
 - イ. 点字ブロック、手すりや段差解消について
 - ウ. その他
- ② バリアフリー化の計画を伺う。
- ③ バリアフリー化の課題を伺う。

2. バリアフリーマスタープランの作成について

(1) 必要性の認識について

- ① 本市において、バリアフリーマスタープランを作成する意義について伺う。
- ② 生活関連経路を定めることで、バリアフリー化が進むのではないか。
- ③ 桶川駅徒歩10分圏内の生活関連施設と思われる施設を地図で伺う。(資料配布)
- ④ 作成に向けた近年の取組と作成の方向性を伺う。

3. 駅西口再整備について

(1) デッキのバリアフリー化について

- ① 直近では、いつ、マインへのバリアフリー化の働きかけを行ったか伺う。また、その内容は。
- ② 市道部分へのエレベーター設置の検討開始まで、あとどの程度かかるのか。
- ③ 現状の設備を生かしたバリアフリー化が必要ではないか。

4. 避難所のバリアフリーについて

(1) 要配慮者の避難先について

- ① 災害時等における要配慮者の緊急受入れに関する協定の小規模施設との締結について、検討は進んでいるか。
- ② 近隣の特別支援学校との協定締結について、検討は進んでいるか。

- ③ 福祉避難所で受けることができる支援には、どのようなものがあるのか伺う。
- ④ 一般避難所から福祉避難所への移送の可否は、誰がどのように判断するのか。また、判断基準のマニュアルはあるのか。
- ⑤ 各指定避難所それぞれの要配慮者へのバリアフリー対応状況（非常電源の有無、段差解消、トイレの手すりの有無、多目的トイレの設置箇所、要配慮者向けのスペースの面積・パーテーションの有無など）を伺う。（資料配布）
- ⑥ 一般避難所への避難が困難な要配慮者の福祉避難所への避難方法を伺う。

2 番 渡邊 広美

1. 「生命の安全教育」「ユースクリニック」の取組について

(1) 「生命の安全教育」について

- ① 令和7年度に実施された「生命の安全教育」の小中学校での、各学校の学年別、実施内容回数、授業形態を伺います。また、教職員研修等の実施状況を伺います。
- ② 実施したことによる成果や現時点での課題について伺います。
- ③ 文科省が活用を推奨している「生命の安全教育」教材の活用状況と、令和8年3月の改訂内容について伺います。
- ④ 「生命の安全教育」は幼児期も対象になっていますが実施状況と今後の取組について伺います。
- ⑤ 保護者への理解促進として家庭と学校が連携できるよう、保護者への情報提供や啓発について伺います。
- ⑥ 文科省の資料には、授業の保護者の参観を可能とすることも考えるとありましたが、保護者が参観された事例はありますか。
- ⑦ 「生命の安全教育」に対する保護者からの反響や意見などがありますか。今後、アンケートや直接聞く機会は考えていますでしょうか。
- ⑧ 埼玉県教育委員会ホームページの「生命の安全教育」サイトには、授業実践の事例が紹介されています。昨年度、入間市立高倉小学校の4年生の保健体育の授業では、発達・思春期の体の変化として単元を4時間使い学習したことが紹介されています。このような独自の取組について伺います。

(2) 「ユースクリニック」の取組について

- ① 性教育については、学校では学習指導要領の範囲内での教育となり、どうしても歯止め規定で入り込めない部分をどう埋めていけるかが問題です。若者が心身の悩みや性に関する多様な問題を、無料で相談できるのがユースクリニックです。新聞記事には、日本の若者は、身体的には健康なものの精神的な幸福度が低く、自殺率はフランスの2～3倍に上るという深刻な現状にあります。2025年に自ら命を絶った小中学生は538人で2年続けて過去最多となっています。理由は、学校や家庭、健康、人間関係といった複数の問題が重なって生じることが多く、その背景には孤立、孤独があります。調査では、家族に打ち明けられない若者が40%に上ることが

報告され、家族にも学校にも相談できない若者を支えるためには、安心して相談でき、必要に応じて医療機関などにつなぐ地域の受け皿の整備が重要です。「死にたい」「眠れない」といった問題が深刻化する前に、若者の声を直接聴く環境をつくることについて本市の考えを伺います。

2. フッ素塗布、フッ化物洗口のさらなる充実について

(1) 1歳から就学前までのフッ素塗布について

- ① 市が実施している1歳～就学前まで、6カ月ごとのフッ素塗布について、直近3年間の実施人数と利用率、年齢別の利用状況について伺います。
- ② 1歳6カ月と3歳3カ月歯科診察の際、フッ素塗布を行っている子の効果がわかれば教えてください。
- ③ 乳幼児の歯の健康を守り、子育て世代の経済的負担を軽減するため1歳6カ月と3歳3カ月の歯科診察時にフッ素塗布を行い、その自己負担分の費用を市が助成により無償化にできないか伺います。

(2) フッ化物洗口の取組について

- ① 埼玉県でのフッ化物洗口の取組と現況について伺います。
- ② 近隣自治体の小学校で、フッ化物洗口が行われている先進事例、効果について伺います。
- ③ 市内小学校の学年別、虫歯保有数の推移について伺います。
- ④ 本市では、希望者に対して、1歳～就学前のフッ素塗布、中学生へのフッ化物洗口が行われていますが、小学校6年間については、フッ化物洗口の対象になっていません。乳歯から永久歯へ生え替わる小学生の時期こそ、継続的な予防が重要ではないでしょうか。小学生を対象としない理由と今後の方向性について伺います。

3. 自転車の交通安全対策と防犯対策について

(1) 自転車の交通安全対策について

- ① 自転車交通違反について警察からどのような情報提供を受けているのか伺います。
- ② 自転車の交通違反青切符、赤切符、指導警告件数など、本市の現状と課題について伺います。
- ③ 全国では「ながら運転」「一時不停止」が多く確認されています。本市において、スマートフォンを使用しながらの運転や、交差点での一時不停止などの危険な運転についての対策を伺います。

- ④ 自転車事故を減らすためには、交通ルールの啓発だけでなく、事故の発生場所を分析し、カラー舗装などの改善が必要です。今後の対策について伺います。
- (2) 防犯カメラの計画的な整備と防犯対策について
- ① 防犯カメラ設置プロジェクトの進捗について伺います。
 - ② 防犯カメラの設置について、犯罪抑止に効果のある場所の選定基準を伺います。
 - ③ 防犯カメラの設置の重要性は、犯罪の抑止力につながったか、市民の安心感が向上したかです。防犯カメラ付自動販売機について、設置効果の高い駅周辺や公園などモデル的に導入し、その効果を検証し展開する考えはありますか。

7 番 榑 萌美

1. 人口減少時代におけるシティプロモーションの推進について

(1) シティプロモーションの位置づけと目的について

- ① 本市におけるシティプロモーションの位置づけ、目的について伺います。
- ② シティプロモーションを、交流人口の増加だけでなく、転入促進、転出抑制及び定住につなげることにについて、市の考えを伺います。
- ③ 本市のシティプロモーションにおいて主な対象とする世代及び発信すべき本市の強みをどのように整理しているのか伺います。

(2) 推進体制と現在の取組について

- ① シティプロモーションにおける庁内の推進体制及び各部署の役割について伺います。
- ② 現在の主な取組について伺います。
- ③ 現在の取組における課題について伺います。

(3) 若者・子育て世代に向けた情報発信について

- ① 転入者・転出者が本市を選んだ理由、又は転出した理由をどのように把握しているのか伺います。
- ② 若者・子育て世代に向け、暮らし、住宅、仕事、妊娠・出産、子育て等の情報をどのように発信しているのか伺います。

2. 妊娠・出産への希望を支える取組について

(1) 不妊・不育症支援の現状について

- ① 不妊検査費及び不育症検査費助成について、それぞれ過去5年間の申請件数、助成件数、助成額及び推移について伺います。
- ② 不妊・不育症に関する過去5年間の相談件数、相談内容の傾向、相談体制及び制度の周知方法について伺います。
- ③ 現行の検査費助成について、利用実績等を踏まえ、市はその効果と今後の方向性をどのように考えているのか伺います。

(2) 治療段階における負担について

- ① 保険適用後も生じる不妊治療及び先進医療の経済的負担を、市はどのように認識しているのか伺います。
- ② 男性不妊を含め、不妊治療と仕事・生活との両立に関する課題をどのように把握しているのか伺います。

- ③ 県内自治体が実施する不妊治療費及び先進医療費助成について、制度内容、利用件数及び事業費を含めた市の調査状況と認識を伺います。

(3) 今後の支援に向けた課題について

- ① 本市では、不妊治療を受けている市民の人数及び治療段階における支援ニーズについて、どの程度把握しているのか伺います。
- ② 妊娠前から治療、妊娠、出産までの情報提供及び相談体制について、現在の課題を伺います。

3. 利用しやすい産後ケア事業の充実について

(1) 産後ケア事業の利用状況と評価について

- ① 宿泊型、デイサービス型、訪問型それぞれについて、過去3年間の実利用者数、延べ利用日数及び事業費の推移について伺います。
- ② 利用者の年齢、利用時期及び利用理由に加え、各類型における1人当たりの利用日数、複数回利用した方の人数及び利用状況について伺います。
- ③ 現在の産後ケア事業の成果と課題をどのように評価しているのか伺います。

(2) 利用上の課題とニーズの把握について

- ① 過去3年間に、利用希望日に利用できなかった件数、キャンセル待ちとなった件数及び利用を断念したケースについて、把握状況を伺います。
- ② 利用者アンケートの実施状況と、寄せられた主な意見について伺います。
- ③ 上のこどもがいる家庭、多胎児家庭、産後4か月を超えた家庭等のニーズをどのように把握しているのか伺います。

(3) 提供体制の現状と課題について

- ① 宿泊型、デイサービス型及び訪問型を合わせて7日以内としている現在の利用上限について、その設定理由を伺います。
- ② 現在の委託施設数及び各類型の受入体制と、利用日数、対象期間及び利用枠の確保について、市が認識している課題を伺います。
- ③ 産後ケア事業に活用している国・県の補助制度の内容、補助対象経費、補助額及び市の負担額について伺います。

9 番 近本 あんな

1. 中高生の学習スペースを拡充させる

- (1) 中高生が使える、学校以外の学習スペースはどこか。指定管理で事業者が運営している施設も含めて、場所・席数・利用可能時間と、利用時間の上限を、資料でお示し願う。

2. 小学校のプール授業の民間委託を、早急に進める

- (1) 民間委託できていない5校の、今後のスケジュール感を伺う。

3. もっと遊べる公園へ、ルールの上アップデートを求める

- (1) 市内の公園のルールについて、一覧でお示し願う。（花火・ボール遊び・自転車乗り入れ・ペット同伴の可否等）
- (2) 現在のルールが策定された背景について、具体的に伺う。

4. 子どもたちの「自己尊厳」と「主体的な学び」を育む

- (1) 「全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について」の質問紙調査より、「自分には良いところがあると思う」は、令和4年度から継続して、県・全国の数値を下回っている。「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていますか」は、項目が出来た令和6年度から県・全国の数値を下回っている。
 - ① これまで教育委員会は学校にどのような働きかけを行ったのか。
 - ② 学校側が実際に行った内容と、PDCAサイクルをどのように回したのか伺う。

5 番 北村 あやこ

1. 行政評価の導入を

(1) 事業の効率化について

- ① 第六次総合計画では、計画的な行財政運営として、効果的・効率的に事務事業を遂行するため、適宜、業務の見直しを行うとあるが、どのような体制になっているか。

(2) 行政評価への認識

- ① 事業の効率化は、市政方針でも触れていないが、行政評価が不可欠である。その必要性についての認識を伺う。

2. 飛行学校の進捗

(1) 知事訪問について

- ① これまでの問題を解決しないまま、知事訪問でどのように紹介したのか。

(2) 進捗状況

- ① 設計と納品の違いは、明確になったのか。業者とのすり合わせはいつどのように行ったのか、資料を基に報告を求める。

3. 南小跡地の利活用について

(1) 南小跡地等施設計画について

- ① プロポーザル方式で選定しているが、選定委員はなぜ職員だけなのか。
- ② 採点の配分に2倍、3倍のものがあるが、なぜか、選定委員会に出した資料を基に説明を求める。

(2) 民間活力導入調査委託について

- ① 前議会で、答えなかったコンサルの応募状況について、提案者数、選定にあたっての審議方法、結果について、説明を求める。
- ② 企画提案書は競争性がある、良いものが出来上がるが、今回の選定をどう考えるのか。提案をどのように評価したのか、業務内容の提案資料を基に説明を求める。

(3) 今後のスケジュール

- ① 整備までのプロセスを伺う。

8 番 須山 陽一郎

1. 悪質な違法建築物から地域の安全を守るための未然防止策と、関係機関との連携について

(1) 市内の違法建築物・無許可開発の把握状況と監視体制について

- ① 現在、市内で把握している都市計画法や建築基準法に違反する事案（無許可建築等）の件数について伺います。
- ② 市民からの関連する相談や通報件数の過去5年間の推移、およびその受付・対応体制について伺います。
- ③ 違反事案を未然に防ぐための、日常的なパトロールなどの監視体制は現在どのようなになっているか伺います。

(2) 指導の長期化・既成事実化を防ぐための初期対応と実効性確保について

- ① 他市の事例のように、是正計画の提出等により意図的に時間を稼ぎ、その間に施設の使用を継続して既成事実化を図るケースについて、市の認識を伺います。
- ② 仮に本市で同様の事案が発生した場合、現行のルールや権限において、使用停止等の措置を講じることは可能か伺います。
- ③ 毅然とした対応を進める上で、実務上および法的にどのような課題があるか伺います。

(3) 関係機関との連携による市民の生活環境・安全確保について

- ① 違法状態が継続し、大規模な人の出入りや車両の往来が発生した場合の、交通安全や生活環境の悪化に対する市の見解を伺います。
- ② 建築指導の枠にとどまらず、地域住民の安全を最優先に守るため、埼玉県や警察等の関係機関とどのように連携を図っていくのか伺います。
- ③ 万が一、近隣から悪質業者が流入した場合に備え、迅速な情報共有と初動対応を行うための今後の体制整備について伺います。

2. いざという時に命を守り合う「自助・共助」の推進と、市と地域が連携した実践的な避難所運営訓練について

(1) 中規模災害等における「在宅避難」の想定と、「自助」の推進について

- ① 災害の長期化や垂直避難など、自宅での生活継続が想定されるケースにおいて、本市が推奨する「在宅避難」の現状の課題とリスク

認識について伺います。

- ② 今年１月に全戸配布した「防災ガイドブック」による市民周知の効果と、今後の実践的な啓発方針について伺います。

(２) 地域コミュニティと連携した「避難所運営」の実効性確保について

- ① 昨年９月定例会で答弁のあった「自主防災組織や避難者で構成されるボランティア班による避難所の運営体制」について、有事に地域住民がその役割を確実に遂行するための周知と体制づくりはどこまで進んでいるか伺います。
- ② 同定例会で提案した「ボランティアを含めた実践的な防災訓練」について、「近隣市町村の状況等を調査研究する」との答弁から現在までの進捗と、得られた知見について伺います。
- ③ 上記の調査研究を踏まえ、「避難所運営マニュアル」を机上のものにとどめず、受付業務や動線確認など、自主防災組織や市民を巻き込んだ具体的な「実動訓練」へと移行していくことへの見解を伺います。

3 番 渡辺 まや

1. 中山道（桶川宿）の歴史的景観を活かした地方創生と沿道まちづくりについて

（1）現状認識と市の主体性について

- ① 歴史的な街並みを再現する上で、電線類の地中化や、歩道整備が不可欠であると考えているが、本市における中山道の現在の状況を伺います。
- ② 本市の中山道の道路・歩道整備事業を県が計画・実施する予定はあるか伺います。
- ③ 本市の中山道沿道に点在する歴史的建造物の過去10年間の件数の推移を伺います。
- ④ 市は現在の中山道沿道の景観保全状況をどのように認識し、今後どのように主体性を持って関わっていくのかを伺います。

（2）都市計画マスタープランとの整合性について

- ① 都市づくりの課題の一つである「地域産業の維持・育成と地域資源の有効活用」の具体的な項目について、「中山道宿場町の歴史と親しむ環境づくり」とは、具体的にどのような環境を予定しており、どのように進めていくのか計画をお示しください。
- ② 景観形成の基本方針について、「中山道宿場町などの歴史的景観資源については、本市ならではの誇りや愛着のもてる市民共有の財産として、適正な保全・管理を図り、次世代への継承に努める」とのことだが、指定文化財施設は現在どのように保全・管理に努めており、次世代にどのように継承していくのか、市の考えを伺います。
- ③ 歴史文化資源を活かした景観形成について、「中山道周辺は、歴史的な建物を保存し、景観条例や地区計画等により、歴史や文化などの地域特性を活かした魅力や価値を高める沿道景観づくりに努める」とのことだが、景観条例と地区計画の現況を伺います。

（3）「歴史まちづくり法」の活用について

- ① 本市が歴史的景観資源とする中山道は、歴史まちづくり法の対象となるか伺います。

2. 飼い主のいない猫の不妊去勢手術補助事業の可能性について

（1）桶川市の状況を確認

- ① 桶川市と埼玉県登録保護団体とが連携して開催した譲渡会の、

過去３年間の猫のみの譲渡成立数と、その中で桶川市内で保護した猫の頭数を伺います。

② 過去３年間の埼玉県動物愛護推進員の人数の推移と、そのうち桶川市を活動範囲とする推進員の人数を伺います。

③ 過去３年間の推進員による桶川市内での実績を伺います。

(２) 近隣自治体の動向と本市の認識について

① 埼玉県が飼い主のいない猫の不妊去勢手術補助事業を実施している目的を伺います。

② 近隣自治体では、不妊去勢手術の支援や事業を既に実施しており、特に上尾市では、今年度さらに予算を拡充して支援を強化しています。周辺自治体が動く中で、なぜ本市は依然として消極的なのか、認識を伺います。

③ 執行部は昨年のご答弁で、不妊去勢手術をした後に元の場所に戻すことに対して懸念を示されました。しかし、繁殖を放置すれば事態は悪化する一方であり、近隣被害は深刻化します。TNR活動は、繁殖を止め、一代限りの命として自然減させる唯一の科学的手段です。「戻すことの懸念」を理由に何もしないことは、結果的に不幸な猫と市民トラブルを放置していることにならないか市の認識を伺います。

④ 埼玉県知事は令和３年４月１３日の記者会見で、「住民が行うTNRに補助金を交付する市町村への財源補助」や「地域猫活動の支援」を行った結果、平成２４年度に１，８７７頭いた野良猫の収容数が令和元年度には５２０頭へと７割以上減少したという劇的な成果を自ら発表しています。県のトップが「元の場所に戻す不妊去勢手術（TNR）こそが、野良猫問題・殺処分を減らす実績ある政策である」と公に認めていますが、市の見解を伺います。

３．親子関係形成支援事業について

(１) 事業を実施するための判断基準について

① 判断基準の一つである「どれくらいニーズがあるのか」について、幼児健診や家庭訪問、各関係機関からの情報提供を通じて支援の必要な家庭をどのように把握しているのか伺います。

② 判断基準の一つである「本事業の導入の余地があるか」について、現況を伺います。

(２) 「こどもに伝わる褒め方・叱り方講座」について

① 昨年のご答弁で「こどもに伝わる褒め方・叱り方講座」は、本事業

業の初歩とのことでしたが、本事業に向けて実施しているという認識で良いか伺います。

- ② 講座内容の選定理由と全実施回の実績、指導者や参加者のご意見を伺います。
- ③ 「こどもに伝わる褒め方・叱り方講座」は、今後どのように展開していく予定かを伺います。